

DV被害者支援の実態に関する調査について（令和6年度分）

調査の概要

姫路市では、姫路市配偶者暴力相談支援センターを利用したことがあるDV被害者のうち、現在安全が確保されている方を対象に、どのような支援を受け、どのように感じたか等についてアンケート調査（郵送）を実施しました。

○調査時期	令和7年6月
○調査方法	アンケート調査（郵送）
○調査協力者数	4名（被依頼者7名）

	甲さん	乙さん	丙さん	丁さん	
1. 当時、どのような被害がありましたか。	A 身体的暴力 C 精神的暴力 D 経済的暴力 F 子どもを利用した暴力	A 身体的暴力 C 精神的暴力	C 精神的暴力 E 社会的暴力	A 身体的暴力 B 性的暴力 C 精神的暴力 D 経済的暴力 E 社会的暴力 F 子どもを利用した暴力	
2. DVを受けた期間について。	E 5年以上	C 半年以上～1年未満	E 5年以上	E 5年以上	
3. 自分の受けた行為が、DVと気づいたきっかけは何ですか。	A 友人からの示唆、指摘 G 姫路市配偶者暴力相談支援センター（DVセンター）相談員からの助言	G 姫路市配偶者暴力相談支援センター（DVセンター）相談員からの助言 H その他（自身の親族からの助言）	H その他（息子からの助言）	A 友人からの示唆、指摘	
4. その被害について、姫路市配偶者暴力相談支援センター以外に利用された相談機関はどこですか。	I 家族や親戚 J 友人・知人	A 警察	A 警察 I 家族や親戚 K その他（弁護士事務所）	A 警察 C 兵庫県の婦人相談所（シェルター） E 姫路市役所（生活援護室、こども支援課など） H 学校関係者 I 家族や親戚 J 友人・知人	
5. 配偶者からの暴力についての証明書の発行について、発行を依頼したものは何ですか。	A 児童手当の受給者変更 B 社会保険の離脱 C 年金事務における支援措置（受給者番号の変更） E その他（子どもの奨学金申請）	E その他（裁判所に対する保護命令の申立て）	F 依頼していない	A 児童手当の受給者変更 C 年金事務における支援措置（受給者番号の変更） D 公営住宅の入居	
6. 回復・被害から流る7相・談子及どもに面会交す	(ア) 「落ち着いてきた」と思えた時期はいつですか。	D その他（1年後）	D その他（2か月前後の期間）	C 離婚できた時	A 3か月後
	(イ) 「回復した」と思えた時期はいつですか。	C その他（就業して2か月頃）	C その他（精神的に落ち着いた生活ができ、子どもたちの表情にも明るさが出た時）	C その他（引越したり様々な手続き等を自分ひとりで、できた時）	B 子どもを養っているという実感を得た時
7. 相・談子及どもに面会交す	(ア) 子どもに関して相談された先はどこですか。	B 学校関係者	D 子ども支援課	E その他（成人になっている）	C スクールカウンセラー D 子ども支援課
	(イ) 面会交流はされていますか。	B していない	B していない	E その他（成人になっているが息子もかなり精神的に参っており、引越すと父と分籍して距離を置くとのこと）	B していない C 先方は希望しているが、実現できていない

		甲さん	乙さん	丙さん	丁さん	
8	(ア)被害を受けていた時の状態について	<p>A 相談をする原因となった事柄について、どのような支援を求めたいと考えておられましたか。また、その希望は、どの程度叶いましたか。</p> <p>B DV被害をもっと早く把握するために、市などの機関がどのようなことに取り組みが良かったと思われますか。</p>	<p>・相手が健康保険を切って、子どもの住所を知らせることを保険加入の条件にしてきた。離婚できていない状態で、自分で国保に入る方法を教えてもらいたかった。</p> <p>・丁寧に支援してもらい、その後も相談にのってもらってとても心強かった。</p>	<p>・DV被害から警察に通報し、その時警察から初めてDVセンターを紹介された。</p> <p>・日々の生活をどのように“復活”・“回復”すれば良いか分からず「何をどうすれば、子どもたちと安全に暮らせるのか」という漠然とした相談から始まったが、各種手続きを含め、具体的なアドバイスをいただく事ができ、一旦、今の落ち着いた日常が得られた事が一番の希望であり、かなりの部分が叶った。</p>	<p>・誰にも理解してもらえず、具体的にどうすれば良いのか詳しい助言が欲しかった。</p> <p>・最初は正直、何も変わらないと思いました。でも「我慢して一緒に住み続けるか、距離を置か決めるのは自分自身だから、行政は個々の案件に立ち入る事はできないから」と助言され、それで背中を押してもらったと思います。それから良い方向に進みました。</p>	<p>・早く離れたいと思った。</p> <p>・ほほ叶った。</p>
	(イ)現時点の状況について	<p>A 今も思い出すことがありますか。</p> <p>B 現在相談したいことはありますか。また、相談できる市等の機関はありますか。</p> <p>C 市のDV相談支援センターや関係する機関に要望したいこと、ご意見などがあればお聞かせください。</p>	<p>・今できることをやっというと思っているので、なるべく思い出さないようにはしているが、思い出すことはある。</p> <p>・引越先でも相談できるようにつながってもらい、相談できる状態です。</p> <p>・長い間、身近な人に相談したりしながら、なかなか前に進めないうでしたが、本当に親身に相談にのって頂いて、制度上のことを教えてもらっただけでなく、一人ではない、行政の方がお仕事以上に寄り添って一緒に考えて下さること、そういう方々に出会えたことが何より支えになりました。まだ、離婚は成立していませんが、1年前から考えたら、日々本当に穏やかに暮らしており、感謝しています。</p> <p>色々と助けて頂いたご恩を忘れず、私も子どもたちと助け合いながら社会の中でお返しできるようにがんばっていきたいと思っています。本当にありがとうございます。</p>	<p>・正直、外部の方々に相談するプロセスや個別の内容ごととに直結するルートというカンパシーな構造をアックスされても良いかと思う。</p> <p>・私自身、例えばDVセンターがここまで親身にさまざまな相談に対応して下さる事を知らなかったもので、具体的な内容・対応のアックスです。</p> <p>・あります。まれに夢に出てくる</p> <p>・監護権を高い確率で取るための方策があれば教えていただきたい。</p> <p>・時期や状況に応じた取るべき対応があれば伺いたい。</p> <p>・このたびは大変親身になって支えてくださり、ありがとうございます。センターのお陰で、自分が冷静に自分や子どものためにすべき事が解りました。</p>	<p>・DV、特にモハラは誰にも理解してもらえず、被害者・加害者共に自覚がないと思います。私も子どもに言われるまで気が付きません。また、地方に行けば行くほど、夫婦仲良く、家族仲良くという価値観が昔のまま、DVや離婚についても、無知や偏見が大きいと思いました。まずは広く知ってもらおう事。</p> <p>・別居して半年ほどはほんの少しの物音におびえることがありましたが、徐々になくなりました。</p> <p>・今でも時に悪夢を見たり、思い出して恐怖を感じる時がありますが、少しずつ落ち着いています。</p> <p>・心療内科の先生やソーシャルワーカー、行政（女性相談室など）と相談しながら、ゆっくり歩んでいきたいと思う。</p> <p>・今までDV相談や警察など公務員の仕事をよく知らず、他人事でした。自分が突然、社会的弱者になる事もあるのだと思い知り、本当に大変な仕事だと思ひます。こちらの自治体でも引き続き、相談にのっていただきたいと思ひしております。</p>	<p>・分からない。</p> <p>・ある。相手の行動やこれからの事</p> <p>・相談したい事は今のところない。</p> <p>・相談できる所はある。</p> <p>・分からない。</p>